

平成 25 年度修士論文審査会

—それぞれの集大成—

The Final Defense of Master's Thesis in 2014 -The compilations of each 5 masters-

2月6日(木)・7日(金)の2日間、都市デザイン研究室修士2年の5名が修士論文審査会に挑みました。無事に発表を終えたメンバーがそれぞれの研究について振り返り、思いを語ります。

柏原葉那 / Hana KASHIWABARA

「千葉ニュータウン西部における用途混在の実態と変遷
—非居住系用途が導く生活の豊かさに着目して—」

本格的に現地調査に動き始めた夏休み、7割以上の方に調査協力を断られました。自宅で勝手にやっているだけなのに調査だなんて...と多くの方に言われてしまう程私的なものを研究対象として良いのか、と少し自信を失いながらも、先生方の力強い後押しのお陰でここまで来る事が出来ました。ありがとうございます。そうした小さな個々の生活が大切だという事の再認識、そして自分が育ててきたニュータウンの在り方を改めて考えなおす事ができました。



越村高至 / Takashi KOSHIMURA

「総合治水の制度創設時における思想と対策実態に関する研究
—鶴見川流域に着目して—」

多くの方々に支えて頂いたことで発表の場に立つことができた実感しています。本当に感謝の気持ちで一杯です。時間切れで着手できなかったことや、最後まで上手く表現出来なかったことなど、反省は尽きません。しかし学部生の時から考えていた「都市と河川の関係」というテーマを諦めずに取り組み、自分が今住んでいる場所について考えを巡らせる機会を得られたという点で、大変貴重な時間を過ごすことが出来たと思っています。



児玉千絵 / Chie KODAMA

「建築基準法第 39 条災害危険区域の理念と実践
—名古屋市臨海部防災区域建築条例の経過に着目して—」

研究室会議の度に違うテーマで発表する私を根気強くご指導くださった先生方、本当にありがとうございました。最終的には、昨年都市計画学会に出した災害危険区域制度に関する論文をもとに名古屋市での災害危険区域規制の事例分析を加えて修士論文としました。ジュリー当日まで準備が整わず、発表質疑もままならず、本当に情けない反省点ばかりですが、何とか一段落つきほっとしています...この反省を生かしてより良い研究に取り組んでいきたいです。



萩原拓也 / Takuya HAGIWARA

「津波経験地域における災害対応に関する研究
—渥美半島太平洋岸集落の変化に着目して—」

2年間の成果というよりも、学部時代を含めた自分の行動や考え、周囲の人からの言葉や議論の積み重ねを研究の中で表現したいという思いの中で、ここ数ヶ月は取り組んできました。最後の最後、現地で直に感じたことを研究という枠の中でも表現する、ということに向き合いきれたのか、見つめ直さなければと感じていますし、今後も都市と関わりを持つ身として、対象と向きあっているかを自分の行動を量る指標にしたいと思います。



福士薫 / Kaori FUKUSHI

「東京 23 区の区立小中学校跡地利用における地域住民による協議プロセスに関する研究」

テーマが固まったのは M1 の終わり頃でしたが、考えてきたことは今思えば学部時代からあまり変わっていない気がします。自分が調べて面白いと感じたことをなかなかうまく表現できず、先生方との対話の中で確認していくことの繰り返しだったように思います。発表でも伝えきれずに悔しかった部分もありますが、あの対話の繰り返しがあったからこそ、楽しいという気持ちを忘れないまま研究ができたように思います。本当に有難うございました。



打ち上げ in 房家

text_fukushi

7日(金)の発表終了後は打ち上げが行われました。会の終盤には M2 一人一人が自己採点を発表し、研究の原点や取り組みの過程を振り返っていました。それぞれ反省点もあり少し辛目の自己採点となりましたが、先生方からは温かいコメントをいただき、ほっとした気持ちと達成感に包まれた楽しい会になりました。



▲自己採点と共に研究への思いを語る



▲全員満腹!

" まち大コーナー第8弾！ "

A Message from MPS Student vol.8!

まちづくり大学院で学ぶ方々からお話を伺う連載企画。第8弾は、独立行政法人国際交流基金に在籍する玄田さんが登場です。

【文化で世界をつなぐ】

まちづくり大学院 5期 M2 玄田 悠大



京都大学・大学院で風景学を学んだ後、空間デザイン会社でのミュージアムの企画・運営等を経て、現在、国際文化交流を担う団体である国際交流基金に在籍し、特にアジア・オセアニア地域における文化交流事業を担当、とこれまで「文化」をキーワードに歩んできました。現在、多国間の共同制作事業に注力しており、平成25年度は、ASEAN 諸国と日本の伝統音楽家を中心に結成した公演団による音楽ツアーな

どを主に担当。ミャンマーをはじめカンボジア、ラオス、ベトナムから韓国等、様々な国々との異文化のコラボレーション・コミュニケーションによるこれからのクリエイションと異文化交流のあり方を模索しています。日本がこれまで培ってきた文化をいかに国際的に活かせるか、また逆の考えも然りですが、他国間交流における文化の持つ価値や役割をより強く認識している日々です。

まち大での研究活動は業務多忙でほとんど進んでいませんが、地域コミュニティの重要な求心力の1つである伝統芸能に眼を向け、これからの伝統芸能と地域のあり方を見つめ、そして、豊かな伝統芸能がありつつ急速に先進化・変革が進むASEAN等発展途上国における文化と地域のあり方を対象にしようと考えています。



▲ヤンゴン（ミャンマー）での公演



▲各国の楽器の特徴を合わせ、新しい音楽を奏でる

プロジェクト報告

Otsuchi-project
大槌プロジェクト

WS に調査に盛りだくさんの2日間となりました。
text_douki

1月25日(土)、26日(日)に窪田准教授、黒瀬助教、D3 神原、M1 瀬川、道喜で現地訪問をしました。25日には朝から赤浜公民館で公民館ワークショップがあり、公民館の設計を担当する会社から住民に構造等について説明がありました。また、午後には赤浜のコモンズ空間におけるコミュニティの変遷について住民のみなさんにヒアリングを行いました。

翌日午前、赤浜でヒアリングを行いつつ、吉里吉里公民館で岩手大学の麦倉教授らによる吉里吉里地区自主防災計画策定検討会を見学させていただき、午後には赤浜3丁目で水場調査の際にお世話になった岩間さんに、沢水の源流や地区に水を引くために整備されたポンプなどを案内していただきました。今回得られた情報を今後の調査研究にどのように生かしていくかがこれからの課題となりそうです。



▲吉里吉里地区自主防災計画策定検討会



▲沢水を見に山へ登る

M1 瀬川、新生活スタート!

An Essay by Segawa



留学先の街の様子と意気込みを伝えます。

text_segawa

2月よりオランダのデルフト工科大学建築学部にて交換留学生として1年間学ぶことになりました。デルフトは駅東側に広がる旧市街地とその南側に位置する大学のキャンパスと、その周辺の団地で構成されています。歴史的な面影を持つ街並と近代的な建築が並ぶ大学エリアのコントラストが印象的です。デルフト内は tram やバスで移動することが可能ですが、多くの中古自転車(新品だと盗難被害に遭いやすいので)を購入し、たとえ雨の中でも、IKEA への買い物でも、自転車で移動します。どの道にも自転車道が整備されていて、それで安全かという、自転車自体が速いので、それなりに危険です。みんななぜか傘をささないの、とりあえず真似してみたら、早速風邪をひきかけています。たくさんのバックグラウンドを持った人々に囲まれ、刺激を受けながら1年間多くのことを吸収できたと思っています。



▲近代的なキャンパスと道路脇にみえる自転車道



▲アムステルダムの縮小版のような旧市街地

Information

2月の予定

2月10日・12日	M1 ジュリー
2月13日	清水現地調査
2月17日	佐原現地調査
2月17～18日	卒論審査
2月23日	清水まちあるきイベント

編集後記

福士 薫

先日は大雪が降りましたが、みなさんは雪を満喫されたでしょうか。私は家のベランダで雪だるまを作りました。目と鼻を何で作るかで一時間悩みましたが、満足のいく作品ができました。



さて、編集長に就任してから早くも1年が経ち、自分で編集する号はこれが最後となりました。正直なところ、指名されたときは前編集長を若干恨みましたが、優秀な編集部員と研究室の皆様のおかげでここまで来ることが出来ました、本当にありがとうございました。今後ともご愛読よろしく願いいたします。